

若桜谷公共交通活性化協議会(鳥取県八頭郡八頭町・若桜町)

総合事業

確保維持改善事業

取組み(功績)の概要 『若桜鉄道を「公有民営」方式に転換し、安定した運行の維持による地域の活性化』

若桜町・八頭町が鉄道施設を保有して鉄道事業者となり、若桜鉄道が運行する、いわゆる「公有民営」方式による再構築事業(全国初の認定)の一環として地域が利用促進策に取り組み、地域の足として安定した運行の維持を図る。

地域の関係者が登録有形文化財(駅施設)の復元等整備や鉄道イベントを開催。

若桜鉄道、幹線バス、フィーダーバス(町営バス等)が連携した生活交通ネットワークを構築。

事業内容

1. 登録有形文化財(駅施設)の復元等整備 (駅施設修繕工事等)

・若桜鉄道施設の国の登録有形文化財指定に伴い、昭和初期の建造による老朽化が顕著な駅施設をレトロな景観に維持するため、駅施設の復元等整備や木造ベンチの製作を行い、歴史的景観の復元を行う。(整備箇所)丹比駅、八東駅

建築的・文化的価値の再認識によるマイルール意識の高揚と観光資源としての需要喚起による鉄道の利用促進と地域の活性化



2. 多様な「若桜鉄道応援団」

・インターネット等を通じた、会員制「若桜鉄道サポーターズクラブ」の設立や枕木オーナー制度等の導入によって、全国規模の支援体制を構築。

3. 鉄道イベントの開催

・鉄道イベント開催時に行われるトロッコ列車の運行がスムーズに行える施設の整備。(整備内容)タラップの設置

若桜鉄道の観光利用の促進



4. 幹線、フィーダーバス等と連携した輸送サービスの確保と充実

・若桜鉄道や幹線バスと接続ダイヤを調整したフィーダーバス(町営バス等)を運行することで交通空白地域を解消した生活交通ネットワークを構築。



登録有形文化財への登録

若桜鉄道は昭和5年、国鉄若桜線として開設されて以来、ほとんどの鉄道施設がほぼ原形のまま残され、その施設等は今なお現役として使用されている。駅舎や橋梁、手動式転車台、給水塔といった施設をまとめて、近代化遺産として登録有形文化財に申請し、平成20年7月に指定された。